ふるさとポケットガイドブック

シリーズ❺

伊能忠敬の蝦夷地測量
野付半島幻の街キラク

ご案内します。どこより素敵なわたしたちのふるさと。

スケールの大きな自然で知られる根釧台地は、その地理的条件、
歴史的役割のうえに独特の文化、情緒をはぐくんできました。
歴史、伝統、そして人情も、実に味わい深い土地柄です。
この魅力を少しずつでもかたちにしたいと、
本シリーズの企画・制作をスタートさせました。
名所を巡りながら、力強く生きる人々の営み、
思いに触れていただくガイドブックです。
地元の方には、もう一度ふるさとに出会い、また好きになるきっかけに、
旅の方には、発見と感動への水先案内人となることを願って。

大地みらい信用金庫
創立100周年記念事業実行委員会

大地みらい基金
設立30周年記念事業実行委員会

○野付半島
全長26km、根室海峡の強い流れがつくった日本最大の砂嘴（さし）。砂浜草原と湿地原で構成されている。ラムサール条約登録湿地、国指定鳥獣保護区、野付風蓮道立自然公園、北海道遺産。砂州からの砂の流出、地盤沈下で、面積は年々縮小している。

野付半島／別海町郷土資料館

～ふるさとの記憶をみらいへつなぐ～

INDEX

べつかい、江戸後期2つのストーリー 03
～伊能忠敬の足跡と野付半島の伝説～

江戸後期の蝦夷地と世界
世界が探した蝦夷地。 05
別海沖に黒船出現。 05
地図がない。 06

地球１周分を歩き、自らの体で日本を測った伊能忠敬
50歳。実業家からの転身。 07
地図づくりは口実だった？ 08
55歳。第一次測量で蝦夷地をめざす。 08

「測量日記」でたどる足跡 第一次測量（蝦夷地測量） 09

蝦夷地測量がなければ伊能図は生まれなかった。
第三次測量からは正式な幕府命に。 14
地球の大きさはわかった？ 14

重大行事ニシベツ献上鮭の製造
伊能忠敬、ネモロ測量を断念。 15
厳密を極めて仕立てた「ニシベツの献上鮭」。 15
空白は間宮林蔵が担った。 16
列強をぎゃふんと言わせた技術。 16

蜃気楼のごとく消えた街、キラク伝説。
道東のミステリー。 17
史実から迫る～野付通行屋 18

そこには何が残るのか？
史実から迫る～野付番屋群 19
発掘調査 20

蝦夷地開拓の先人・大通辞 加賀伝蔵
アイヌ語通辞として。 21
後世に残る克明な記録。 21
伝蔵のチャレンジ。畑作。 22
松浦武四郎とも交流。 22

べつかいプチ歴史めぐり 23

別海周辺マップ 25

表紙写真／本別海　一本松の朝日

べつかい、
江戸後期2つのストーリー

～伊能忠敬の足跡と野付半島の伝説～

別海町本別海の西別川河口に立つ「第一次伊能忠敬測量隊 最東端到達記念柱」。見上げれば200年以上前に伊能忠敬が見た星空が広がります。

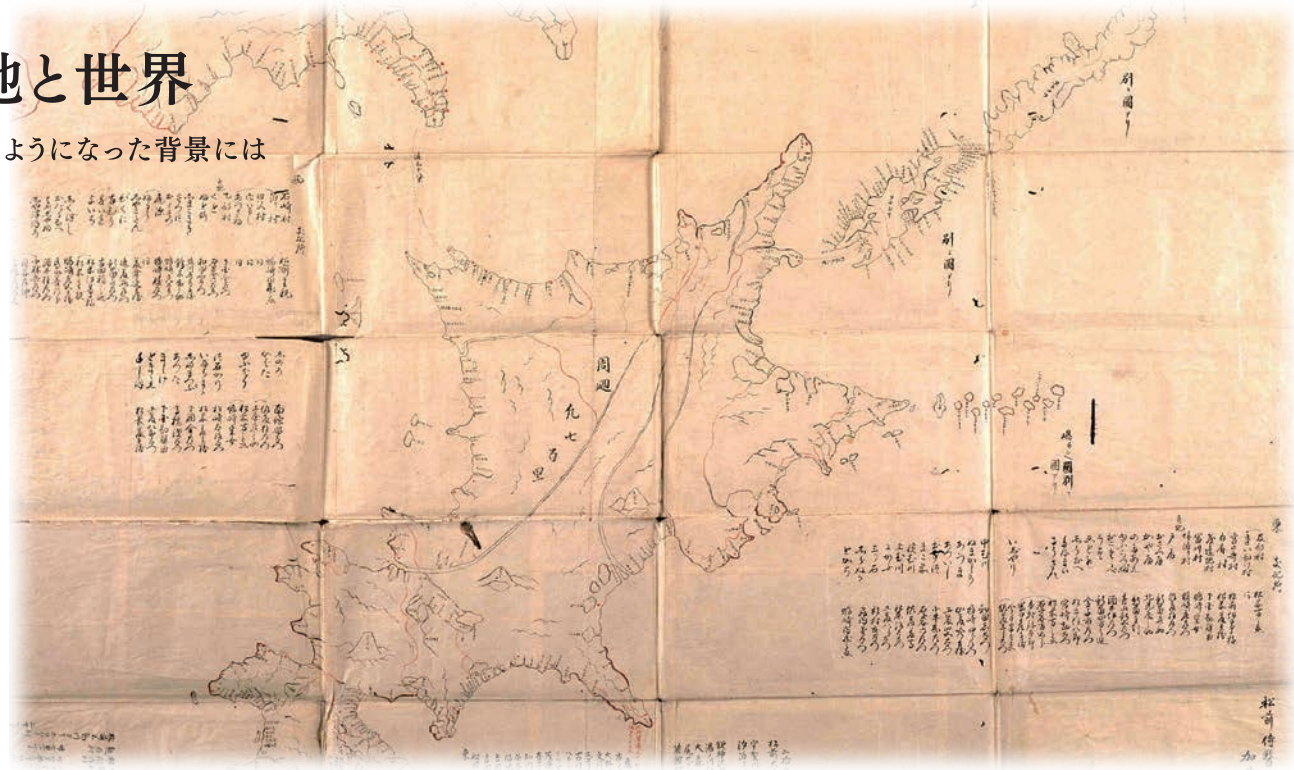
別海町本別海、西別川河口近くに立つ木柱。
ここは初めて正確な日本地図をつくった
伊能忠敬の蝦夷地測量最終到達地点です。
江戸からの過酷な道のりを支えた原動力は何だったのか、
なぜここが最北・最東の地点となったのか、
江戸後期のレジェンドの足跡を追います。
そして同じ頃、野付半島に存在したと伝わる
幻の街・キラク。ロマンに満ちた2つのストーリー、
想像力を解き放ってお楽しみください。

江戸後期の蝦夷地と世界

蝦夷地が日本の領土として意識されるようになった背景には海にちらつく大国の影がありました。

世界が探した蝦夷地。

13世紀後半に東方を旅したマルコポーロが日本を「黄金の国ジパング」と呼び、続く大航海時代にはその北にあるといわれる「銀の島・エゾ」が欧州各国の探検心をそそりました。オランダ、スペインはじめ世界の船団がこぞって「銀の島」を探し、オランダに造船を学んだロシア・ロマノフ王朝ピョートル大帝も極東へ高い関心を示すようになります。しかし、いつも濃い霧に阻まれた「銀の島」の全体像は、誰もつかめずにいました。



松前地図：寛政2～3年松前藩作成／北海道大学附属図書館

別海沖に黒船出現。

1778年、強国ロシアから通商を求める商人がネモロに近いノッカマップに、翌年は厚岸に上陸しました。これを受けて老中・田沼意次は1785年（天明5）総勢37人の幕府初の調査隊を蝦夷地に派遣しますが、翌年の失脚に伴い調査は中止されました。そして1792年（寛政4）、ラクスマン率いるロシア船エカテリーナ号が別海町バラサン沖に現れ、ニシベツ（別海町本別海）に上陸。ついに民間レベルではなくロシア帝国として正式に通商を求めてきたのです。ペリー来航の61年も前のことでした。

黒船来航時のニシベツは、国際交流上手だった。

ラクスマン一行を自宅に招いたり、米、たばこ、砂糖などを贈り合うなどニシベツではなごやかな交歓が行われました。冬季の停泊に適した港を尋ねられ勧めた根室港までは、ニシベツから2人の案内人が同行しました。

地図がない。

その後、松前藩がイギリス船の津軽海峡横断を容認したこともあり、危機感を募らせた幕府は1798年（寛政10）再度調査団を蝦夷地に送り、翌年、東蝦夷地と南千島（北方領土）を直轄地としました。直轄地となった蝦夷地では開発が始まりました。蝦夷地と千島間の航路開拓をはじめ陸路・海路の整備や、キリスト教排除、異国船退散祈祷などを目的にした蝦夷三官寺の建立もこの頃です。しかし、直轄地でありながら幕府はまだ、蝦夷地の本当の形、広さをつかめていません。国防に不可欠な地図づくりは幕府喫緊の課題の一つとなりました。

蝦夷三官寺の一つ国泰寺（厚岸町）

地球1周分を歩き、自らの体で日本を測った 伊能忠敬

［いのうただたか］

本別海　一本松の朝日

50歳。実業家からの転身。

伊能忠敬は1745年（延享2）千葉県九十九里町に生まれ、17歳で佐原の酒造家伊能家に婿入り、その数学センスで家業を拡大し約3万両、現在の価値にして約24億円ともいわれる資産を築きました。ビジネスに辣腕を振るう間も学問への情熱を抱き続け独学で暦学をおさめますが、49歳で息子に家業を譲って隠居、50歳を機に当時の天文学の第一人者、幕府天文方の高橋至時に弟子入りします。人生50年といわれた時代の忠敬の選択に、いまあらためて注目が集まっています。

地図づくりは口実だった？

初の近代的日本地図「伊能図」で知られる伊能忠敬ですが、本当の目的は地図づくりとは別にありました。それは、正確な暦作成のために地球の大きさを知ること。当時、地球が球体であることは知られていましたがその外周は世界最高レベルの難問でした。忠敬はこれを、北極星の高さを2地点で観測し見上げる角度の違いから緯度1度の距離を割り出して解こうと考えたのです。誤差を小さくするために江戸と、遠く離れた蝦夷地での北極星観測を思いつきますが、その頃の蝦夷地は幕府の許可なしでは入れない地。そこで師匠・高橋至時のアドバイスを受け、蝦夷地の地図作成を幕府に申請したのです。

伊能忠敬記念公園
（千葉県九十九里町）

55歳。第一次測量で蝦夷地をめざす。

申請は地図を必要とする幕府の思惑と一致、蝦夷地での移動の自由を手にした忠敬はさっそく第一次測量に出発しました。測量器具70両（約560万円）、道中の費用100両のうち70両以上を私費で負担しての測量でした。

測量は、最初は縄を使い、途中からは時間節約のために歩測で行いました。これは一定歩幅（約69cm）で歩く訓練を積んだ者複数で同じ場所を歩き、歩数の平均値から距離を計算する独自の方法。先を急ぎながらも、忠敬は妥協のない正確な測量を粘り強く続けました。

伊能忠敬旧宅（千葉県香取市佐原）

「測量日記」でたどる足跡

第一次測量（蝦夷地測量）

筆まめな伊能忠敬は、のべ4600日におよぶ測量の日々を51冊の「忠敬先生日記」と清書本「測量日記」28冊に残しています。
第一次測量で伊能忠敬は1日平均40kmを歩測し、わずか21日間で津軽半島先端に到着します。しかし風待ちで津軽海峡を渡れたのは9日後。吉岡（福島町）に上陸、煩雑な手続きをへて根室に向け出発したものの、西別（別海町）が最北・最東の到達地となりました。

寛政十二年（1800年）

○抜粋、要約　○日付は和暦（西暦）　○地名の（　）は現在の地名

【閏（うるう）四月十九日（6月11日）】
朝五ツ前※、深川（自宅）出立。9人、馬2頭。富岡八幡宮に参拝し、浅草司天台に立ち寄り、千住宿にて別宴。千住より草加宿2里8町、草加より越谷へ1里28町、大沢宿に七ツ頃着、止宿。

【五月十日（7月1日）】
朝五ツ頃（平館／青森県外ヶ浜町）出立。八ツ半頃三厩着。

【五月十一日（7月2日）】
この日東風[ここではヤマセ風と呼ぶ]にて渡海ならず。

【五月十九日（7月10日）】
朝より晴天、五ツ半頃出帆。戌亥（いぬい／北西）の風強し。箱館着船は難しく、松前領吉岡に昼九ツ後に着。

【五月二十二日（7月13日）】
箱館に七ツ頃着。御役所に到着を届け、（江戸から持参の）お添触を返す。

【五月二十六日（7月17日）】
御役所へ添触を願置（催促）。太陽を観測。

【五月二十八日（7月19日）】
土用。朝五ツ後まで曇る、それより晴天。箱館山に登って所々の方位を測り、夜も晴れ、天測。箱館御役所へ出立を届け、先触を出す。

【おおよその時刻】（閏四月から八月）

「朝五ツ」……朝6時半～8時過ぎ
「朝四ツ」……8時～10時
「昼九ツ」……11時～13時
「昼八ツ」……13時～15時
「昼七ツ」……15時～17時
「夜八ツ」……午前1時～2時

【五月二十九日（7月20日）】
朝より晴天。甚だ暑い。朝五ツ後箱館を出立。途中間縄での測量が難しくなり足間で大野まで測量。夜曇天、雲間天測。

【七月二日（8月21日）】
朝五ツ頃砂馬仁（様似）出立。海岸、行路難し。また高く尖る大岩を上下するところあり甚だ危なし。案内人を連れ干潮を狙った場所は潮満ちて渡れず、また潮に濡れて3・4町も戻り、念仏坂と呼ばれる険阻なる山越えをしてポロマンベツという川に出る。それより海辺2里45町余り、内陸に1里ほど入り五ツ頃ホロイズミ（えりも）着。
　終日難所で草履もことごとく切れ破れ裸足になり困窮していたところ、迎えの提灯を目にしたのは「地獄に仏」とも言うべし。

●量程車（りょうていしゃ）
車輪の回転で距離をあらわす器具。

●半円方位盤（はんえんほういばん）
遠くの山や島までの方位を測る方位盤。

●象限儀（しょうげんぎ）（中）
北極星などの高度を測るための器具。

●彎窠羅針（わんからしん）
杖の先につけた方位磁石。

閏（うるう）四月の謎。1年は13カ月あった？

日本で1872年（明治5）まで使われた太陰暦は1カ月が30日ある大の月と29日の小の月を繰り返しましたが、1年12カ月では徐々に季節とずれるため、2・3年に1度、閏月を設けて1年を13カ月とし、調整しました。伊能忠敬が蝦夷地を訪れた1800年も、4月の後に閏4月が続いた13カ月ある年でした。

「測量日記」でたどる足跡

第一次測量（蝦夷地測量）

【七月二十二日(9月10日)】
朝より曇天、五ツ後（シャクベツ／釧路市尺別）出立。海岸2里余りパシクロ（馬主来）にて中食。同海岸3里24町八ツ半頃シラヌカ（白糠）着。

【七月二十三日（9月11日）】
朝雨天、四ツ頃より晴れ。夜も晴天、天測。

【七月二十四日（9月12日）】 1
朝より晴天、夜も同じ。朝五ツ前、白糠出立。海岸4里余りオタノシケ（大楽毛）にて中食。海岸3里ほど、七ツ後クスリ（釧路）着。夜天測。

【七月二十五日（9月13日）】 2
朝五ツ、クスリ出立。海岸、新開山道2里、カチロコイ（桂恋）で中食。新開山道、海岸3里ほど経て八ツ後コンブムイ（昆布森）着。クスリより4里といえど遠し。明け方まで大風雨。

【七月二十六日（9月14日）】
朝より九ツ頃まで薄曇り、雲間太陽を測る。八ツ頃より中晴れ、夜も同じ。天測。

【七月二十七日（9月15日）】 3
朝曇り、午前より晴天。朝五ツ前出立。新開山道を行き海岸へ出、また新開山道、海岸、再び山へ登る所をシヨンデキ（初無敵）という。中食、コンブムイより5里28町、七ツ半ゼンホウジ（仙鳳趾）着。夜、天測。

東蝦夷図巻 クスリ／北海道大学附属図書館

東蝦夷地より国後へ
陸地道中絵図 コンブムイ
／函館市中央図書館

東蝦夷地より国後へ
陸地道中絵図 ゼンホウジ
／函館市中央図書館

1 クスリ
カチロコイ
2 コンブムイ
ションデキ
3 ゼンホウジ
アッケシ
4

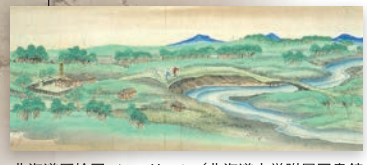
★印は天測位置

伊能大図彩色図／国土地理院ウェブサイトより

【七月二十八日（9月16日）】
朝曇り、四ツ後より雨天。陸地海岸は通行に向かず、人足もないのでアツケシ（厚岸）へ渡海の船を頼む。八ツ半頃船が来たが雨天のため出立は見合わせ。

【七月二十九日（9月17日）】 4
朝四ツ半頃まで雨天、その後やみ、少し晴れたため中食後すぐ乗船。海上3里、アツケシへ七ツ頃着船。船中は晴れ、暮れより曇天。

東蝦夷地より国後へ
陸地道中絵図 アンネベツ
／函館市中央図書館


北海道歴検図 ノコベリベツ／北海道大学附属図書館

東蝦夷図巻 アッケシ／北海道大学附属図書館

東蝦夷地より国後へ陸地道中絵図 フウレントウ
／函館市中央図書館

5 ノコベリベツ
6 アンネベツ
7 フウレントウ
ニシベツ

【七月晦日（9月18日）】
朝より晴天、大西風、夜に入り小風。夜八ツ頃まで天測。

【八月朔日（9月19日）】
朝より晴天、昼太陽を測る。八ツ後より曇る。夜は晴れ。

【八月二日（9月20日）】 5
朝より曇天、夜から明け方まで大風雨。五ツ前出立。入海と川を2里渡り、陸を2里、ヤブイ（別寒辺牛付近）にて中食。それより3里ノコベリベツ（浜中町茶内付近）着。アツケシ持ちの番屋に止宿。

第一次測量（蝦夷地測量）

【八月三日（9月21日）】 6
朝少し晴れ、昼晴曇。朝五ツ前出立。3里余りオイナオシ（奔幌戸と姉別の中間付近）にて中食。それより3里ほど、八ツ半頃アンネベツ（姉別）着。夜晴天、天測。番屋に止宿。

【八月四日（9月22日）】
朝より晴天。ここはネモロ（根室）持ち。ネモロより迎船を待つが来ないため逗留。

【八月五日（9月23日）】
朝より晴天。迎船来ず逗留。

【八月六日（9月24日）】
朝より晴天。ネモロの役人がニシベツ（西別）に行っているため、七ツ頃ニシベツより迎船が来る。遅い時間だったため逗留。

【八月七日（9月25日）】 7
朝四ッ頃まで霧深し、その後晴天。朝五ツ後出立。川舟3里余りフウレントウ（風蓮湖）、それより草原平地10町ばかり行き海岸に出、27町余り、ニシベツに九ツ過ぎ着。仮家に止宿。夜晴れ、天測。
ここは残らず仮家なり。ネモロ会所から役人が3人ここへ来ており「鮭漁で人手が足りず、ネモロへの船での送迎は難しい。ネモロへ行かなくてすむのであれば、なにとぞここまでにしてもらえないか」と相談される。そこで今年は、ネモロは遠測にして明日は逗留、九日出立とする。八ツ後よりクナシリ島、ネモロ、そのほかの方位を測る。

伊能忠敬 測量最北最東端の地
北緯43度22分、東経145度17分
※伊能忠敬の記録は、四捨五入にて北緯43度23分。

最東端到達記念碑

【八月八日（9月26日）】
朝より晴天。アッケシへ迎船を手配。昼太陽を測り、十間縄でクナシリ（国後）、ネモロ、ノツケ（野付）そのほかの方位を測る。夜は薄曇り。

【八月九日（9月27日）】
朝より夜まで晴天。朝五ツ前ニシベツ出立。海辺27町、原と野地10町ばかりフウレントウに到り、乗船1里余り、フウレン川3里余り、七ツ半後アンネベツ着。

この後、忠敬は来た道を引き返し、十月二十一日（12月7日）、深川の隠居宅に帰宅しました。

蝦夷地測量がなければ伊能図は生まれなかった。

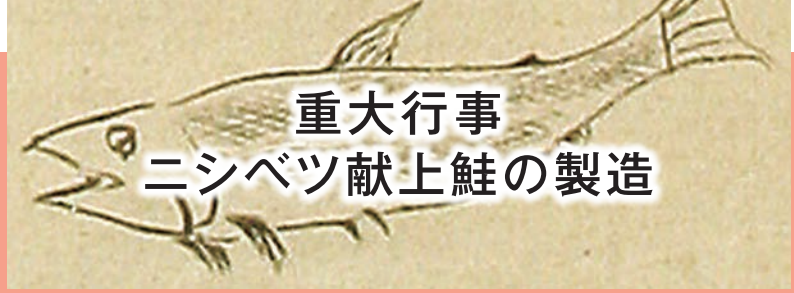
第三次測量からは正式な幕府命に。

寛政12年10月21日（1800年12月7日）、第一次測量から自宅に戻った伊能忠敬は、12月21日に幕府に地図を提出。忠敬は天命を授かることになりました。

太平洋沿岸のみとはいえ蝦夷地の真の姿が描かれた地図の出来栄えに驚いた幕府は、伊能忠敬にさらなる測量を勧めました。第三次測量には正式に幕府の命が下り手当60両が支給され、第五次からは幕府直轄事業に。測量は第十次まで17年がかりで行われ、集めたデータは、昭和初期まで日本地図として使われることになる伊能図に結実します。

地球の大きさはわかった？

伊能忠敬はニシベツと江戸の北極星の角度から緯度1度の距離27里（106km）、地球の外周3万8160kmと計算しました。実際は111km、4万kmなので誤差は5％です。続く第二次測量では緯度1度28.2里（110.74km）と誤差0.3％にまで迫り、第四次測量ではついに外周約4万kmと計算します。忠敬は地図づくりを進めながらも世界最高レベルの難問を解く本来の目的を遂げていました。



重大行事 ニシベツ献上鮭の製造

伊能忠敬、ネモロ測量を断念。

江戸をたって108日、忠敬は北海道の東海岸、ニシベツに到りました。めざすのはさらに東のネモロ（根室）です。しかし、忠敬は断念せざるを得ませんでした。根室へ渡るための船、根室での滞在、すべてに会所（幕府の役人の詰所）の協力が必要ですが、役人から「ネモロ会所は役人が不在で手が回らない。できればあきらめてほしい」といわれたからです。この時ネモロ会所の役人は忠敬の着いたニシベツにいました。ネモロ会所の数ある行事の中でもとりわけ重大で神経を使う行事、ニシベツ献上鮭製造をこのニシベツで行っていたのです。

厳密を極めて仕立てた「ニシベツの献上鮭」。

アイヌ語で豊漁なる川を意味するニシベツでは、先史時代から鮭漁が行われていました。天明年間に塩鮭の生産が始まり、1800年（寛政12）に初めて第11代将軍・徳川家斉に献上したところ、大いに気に入った将軍から「毎年献上するように」とのお達しがあり、この年から献上鮭製造はネモロ会所のとりわけ重要な行事となり、幕末まで続けられました。

献上鮭は非常に厳しい決まりにのっとり仕立てられました。漁獲、最高品質の鮭の選別、塩漬け、すべてがネモロ会所から献上鮭製造方掛としてニシベツに出張してきた支配人、通辞、番人小頭の手で行われました。沐浴で身を清め、しめ縄を張った献上鮭製造蔵で徹底的に不浄を避けて塩漬けがつくられ、その後、文書蔵での箱詰め、むしろ包み、封印、船への積み込みも、沐浴をすませ麻の裃（かみしも）を着用した役人の立ち会いのもとで粛々と行われました。

忠敬の足を止めたニシベツ献上鮭、いまは「西別鮭・献上造り」で味わうことができます。

御献上鮭製造之図／函館市中央図書館

空白は間宮林蔵が担った。

1816年、第十次測量を終えた伊能忠敬は全日本地図の製作に取りかかります。測量が叶わなかった蝦夷地北西部は、忠敬に測量法を学んだ間宮林蔵が引き継ぎ、精密なデータを届けてくれました。ところが忠敬は体調を崩し、翌年73歳で人生の幕を閉じます。弟子たちはその死を伏せて作業を続け、3年後地図を完成させました。1821年7月、江戸城大広間に広げられた「大日本沿海輿地全図」（伊能図）の大図（3万6000分の1）は全214枚、1枚が畳1畳サイズという規模で明らかにされた蝦夷地を含む日本の全貌でした。この2カ月後、忠敬の死は「地図を幕府に納めた後に没した」として公表されました。

読んで触れるその人生

史実をベースにした歴史小説で。
『伊能忠敬　日本を測量した男』
童門冬二 著　【河出文庫】
艱難辛苦にも屈せず偉業を成し遂げた晩熟の男の生涯に迫ります。

エンターテインメントとして。
『四千万歩の男』全5巻
井上ひさし 著　【講談社文庫】
フィクションを交え、ときにユーモアたっぷりに描く伊能忠敬像。

列強をぎゃふんと言わせた技術。

1861年（文久元）植民地政策を進める英国海軍の測量船が勝手に日本沿岸の測量を始めました。早く追い払いたい幕府は伊能図を渡します。すると相手は「これほど正確な地図を作ることができるのか」と仰天、すぐに測量をやめて去りました。伊能図が、文明後進国とみなされていた日本の高い技術力を西洋に知らしめたのです。

忠敬に弟子入り、偉業をなした間宮林蔵

サハリン（樺太）が島であることを発見したことで知られる間宮林蔵は1780年（安永9）常陸国に生まれ、19歳で蝦夷地に渡り、箱館で第一次測量中の伊能忠敬と出会いました。林蔵は忠敬に弟子入りし、間宮海峡発見後の1811年には第八次測量（九州）から戻った忠敬の自宅に泊まり込んで測量技術、緯度計測法を学びました。林蔵はその技術をもって蝦夷地に戻り日本海側、オホーツク沿岸部の空白を5年がかりで埋め、「大日本沿海輿地全図」の蝦夷地部分を担ったのです。林蔵はその後も蝦夷地測量を続け、のべ12年をかけて集落の名、地名が詳しく記された『蝦夷図』を完成させています。

蜃気楼のごとく消えた街、
キラク伝説。

明治から今日まで、地元の人の言い伝えだけが残るキラク。
みんな知っているけれど、本当のことは誰も知らない。

「野付通行屋・野付番屋群ジオラマ」／加賀家文書館

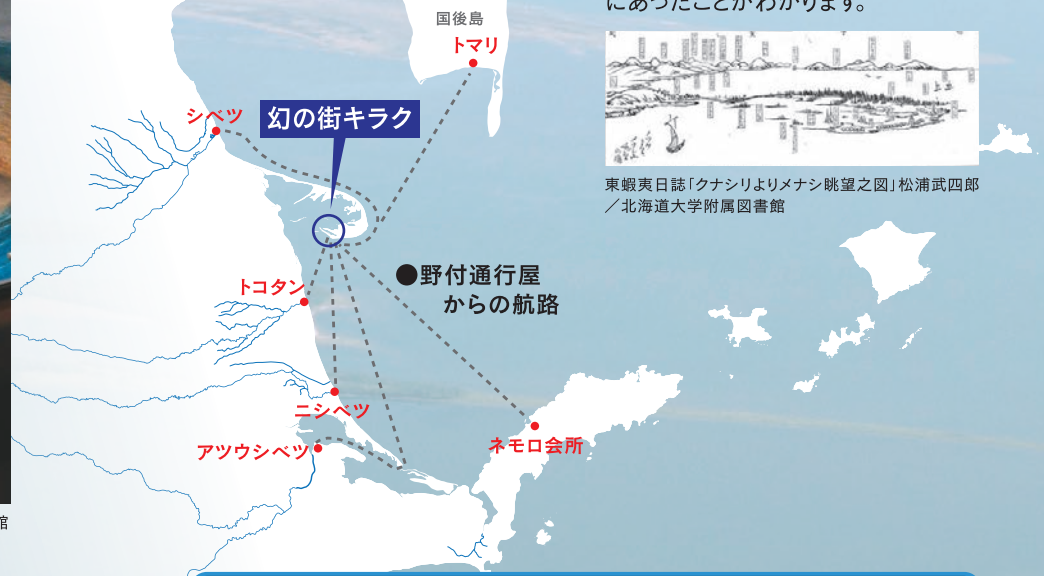
道東のミステリー。

知床半島と根室半島の中間に筆ではいたような弧を描く野付半島。かつて「キラク」という街があったという伝説が残ります。「景気がよく気楽だからキラク」「武家屋敷があり鍛冶屋もいた」「番屋群があった」「遊女がいた」「歓楽街の灯は一晩中消えなかった」。そして、江戸後期に栄えた街は明治期に入り「忽然と姿を消した」というのです。地元に代々伝わる話は多くの人のロマンと好奇心を駆り立ててきました。実在したのか、幻か。謎に魅了された旅人がいまも「キラク」探しに訪れます。

史実から迫る〜野付通行屋

「キラク」が幻の街と呼ばれるのは、突然の消滅に加え、どの古文書にも一切記録が見当たらないためです。では当時の記録には何が記されているのでしょう。「キラク」があったとされる野付半島の2番目（内側）の尖岬に、1799年（寛政11）、幕府により「通行屋」が設置されました。通行屋は船を持ち、人馬継立や郵便、宿泊も取り扱う施設です。加賀伝蔵が残した詳細な記録から、通行屋には支配人と妻、アイヌ民族の人足が詰め、国後場所、択捉場所（交易所）開設に伴い商人や武士の行き来も頻繁にあったことがわかります。

東蝦夷日誌「クナシリよりメナシ眺望之図」松浦武四郎／北海道大学附属図書館



国後島へ16km。道東と北方領土の通行拠点。

江戸後期、野付は国後島への渡海の要津でした。通行屋ができる前年の1798年（寛政10）には、幕府の命を受けて最上徳内と共に国後島、択捉島を調査した近藤重蔵も野付に宿泊しています。また、根室、標津、目梨（羅臼）、厚岸への交通の拠点としての役割も果たしていました。内陸部への交通はシベツ川沿いに設けられた斜里山道や、厚岸へ向かうための道がアツウシベツから風蓮川沿いにありました。野付半島先端部は、道東各地から人や物、情報が集まる場所だったのです。

そこには何が残るのか？

野付通行屋跡遺跡（1999年）／別海町郷土資料館

史実から迫る～野付番屋群

この時代の野付半島の外海はニシンの好漁場でした。当時の記録には、二つに分かれた半島先端の外側の尖岬には50～60軒もの番屋や蔵が立っていたこと、春になれば大勢の出稼ぎで賑わっていたことが記されています。通行屋と番屋群の賑わいは「キラク」の言い伝えと重なります。文書には「キラク」の名称はもちろん、歓楽街の存在もありませんが、謎は謎のままにしておくのがいいのかもしれません。

当時の墓石

発掘調査

地元の人たちから「キラク」と呼ばれている野付通行屋跡遺跡には、土塁の跡、墓石、貝塚などが残り、陶磁器などが散乱し、人々の生活の痕跡を見ることができます。

しかし、野付半島は、地盤沈下や海水面の上昇により浸食を受け年々その姿を変えています。2003年（平成15年）野付通行屋跡遺跡が自然崩壊の恐れがあるということで、記録保存のための発掘調査が実施されました。調査は3年がかりで行われ、崩壊のおそれのある海岸付近約1万5700㎡が調査対象とされました。通行屋の付属施設、蔵と思われる2棟の建物跡や、柵や塀の跡、土塁、道跡、貝塚に加え畑の跡も見つかり、畝の切り返しや客土も確認されました。

畑跡地／加賀家文書館

陶磁器や金属製品など
1万4000点もの遺物が出土

「野付通行屋跡遺跡・野付番屋跡遺跡を学芸員と歩く」

別海町郷土資料館では、「ふるさと講座」として年1回、この地を訪れるツアーを実施しています。下草の伸びない4月の干潮に合わせて行い、地表面に残された痕跡、畑跡や墓石、陶磁器などを見ることができます。

普段は一般車両も入れず、道路がなくルートもわからない上、干潮時でなければ渡れない場所もあり、さらに夏季は生い茂る草と飛び回る無数の虫に行く手を阻まれますので、学芸員のガイドがなければ行くことができないところです。町民はもちろん、町外、道外からも参加がある人気の講座となっています。

●問合せ／別海町郷土資料館　kyoudo@betsukai.jp　0153-75-0802

蝦夷地開拓の先人・大通辞
加賀伝蔵【かがでんぞう】

江戸時代後期の根室地方の功労者、加賀家一族。
なかでも三代目伝蔵の残した記録から浮かび上がる東部奥蝦夷地の様子。
野付での生活、その業績はどのようなものであったのか。

伝蔵の自画像『自画自賛』（部分）／加賀家文書館

アイヌ語通辞として。

加賀家は初代徳兵衛が加賀の国（石川県）から蝦夷地をめざして船出、漂着した八森（秋田県八峰町）に居を構え、代々蝦夷地に渡って、当時の根室地方の場所請負人、近江商人・藤野家の用人として活躍しました。三代目の伝蔵は1818年（文政元）15歳でクスリ（釧路）に渡り、飯炊き・帳場手伝いをしながらアイヌ語を習得、1830年（天保元）からはノツケ（野付）で通辞（通訳）として働き始めます。地元の情報に精通しアイヌ民族とも信頼関係にあった伝蔵は、場所請負人には不可欠な存在でした。1860年には大通辞の称号が与えられ、シベツ（標津）場所に移り、その後は支配人として明治初期まで活躍しました。

後世に残る克明な記録。

加賀家は膨大な量の文書、資料を残しています。そのほとんどは伝蔵が書き残した物で、継立御用文書、申渡書の写し、アイヌ語和訳から伝蔵の絵心が発揮された絵、地図まで多彩です。鰊番屋の様子、幕府が命じた種痘をアイヌ民族が嫌がった際に医師に協力して説得にあたった記録、将軍に献上する西別鮭の製造方法、多様な情報が詰め込まれた貴重な史料は、歴史マニアならずとも引き込まれる面白さです。

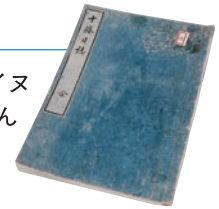
伝蔵のチャレンジ。畑作。

近世蝦夷人物誌
「農夫茶右衛門之図」松浦武四郎
／松浦武四郎記念館

伝蔵の大きな功績の一つが野付半島での農業への挑戦です。冬は厳しく、夏も霧に包まれ冷涼な気候、砂と貝殻だらけの土地という悪条件での挑戦は、アイヌ民族の茶右衛門（ちゃうえもん）の勧めでした。手始めに通行屋の裏に開いた畑は、発掘調査で2000㎡ほどあったことがわかっています。伝蔵はその後、半島の土地を調べたうえでヲン子（ネ）ニクルで本格的な畑作に着手、記録には27品目もの作物の栽培の結果が記されています。伝蔵の開墾は根室地方における農業の創始といえるものです。

「大小ニクル穐山之図」／加賀家文書館

松浦武四郎とも交流。



松浦武四郎から
贈られた『十勝日誌』も
加賀家文書館に展示

伝蔵は、北海道の名付け親として知られる松浦武四郎とも深い交流がありました。伝蔵は案内人を紹介するなど武四郎の蝦夷地踏査を支え、江戸の武四郎宅に筋子など蝦夷の特産物を送り、武四郎からは著書が発刊の度に贈られました。アイヌ民族の窮状を著書で告発した武四郎は、伝蔵にもアイヌ民族の保護を頼んでいます。二人は、蝦夷地とアイヌ民族への思いを共有する同志だったのかもしれません。

加賀家文書館 別海町別海宮舞町29

加賀家7代目・加賀實留男氏から寄託された約1000点の古文書資料、野付通行屋のジオラマ、出土品などがわかりやすく展示されています。

9:00～17:00（入館は16:30まで）　電話：0153-75-2473　観覧料：一般300円
休館日：祝日、第2・4月曜、第1・3・5土曜、第1・3・5日曜、年末年始

べつかい プチ 歴史めぐり

面積1320㎢、東京23区の2倍以上の広さに、
約1万6000人の町民と
約12万頭の牛が暮らす別海町。
開拓期からの歴史の
置き土産も点在します。

日本最大の千島桜で最も遅い花見をどうぞ

野付の千島桜

map 1

1906年（明治39）、小学3年生3人が対岸の野付半島“キラク”から小舟で運んで移植した3本のうちの1本といわれます。推定樹齢110年以上、千島桜としてはまれに見る大木で5mを超える枝幅は日本最大。例年5月中旬から下旬が見頃です。

◎別海町尾岱沼潮見町220 野付小学校内

※小学校の敷地内です。見学はマナーを守って。

別海町指定天然記念物

これ、なに？知る人ぞ知る戦時の遺構

帝国陸軍計根別第一飛行場 掩体壕（えんたいごう）跡

map 2

第二次世界大戦後半に造られた飛行場の一つで、陸軍一式戦闘機「隼（はやぶさ）」も飛来したとされます。幅約30m、奥行き約20m、高さ約5m、牧草地と一体化し、小高い丘のように見える掩体壕は戦闘機を敵弾から守るための施設、戦時の記憶を留める遺構です。

◎別海町本別（標茶町虹別の国道243号から道道13号に入り東へ約7km）

※私有地につき、立ち入りはご遠慮ください。

別海町郷土資料館 提供

当時のままの建材、調度品は見応え十分

旧奥行臼駅逓所

map 3

駅逓所とは開拓期に交通不便の地で人や馬の継ぎ立て、宿泊、郵便などを取り扱った北海道独自の施設です。1910年（明治43）開設の奥行臼駅逓所は1930年（昭和5）まで根室と別海の内陸部・海岸部を結ぶ交通の要衝として役割を果たし、駅逓全盛期の姿をいまに伝えています。

◎別海町別海奥行15-12

※2016年より大規模保存修理。2018年秋完了予定。

国指定史跡

GHQの撤去命令を逃れ、現存

旧柏野尋常小学校奉安殿

map 4

奉安殿は明治以降、全国の学校に建てられた天皇・皇后の御真影、教育勅語を納めた建物。戦後GHQが撤去を命じたため、現存しているものは全国的にもまれです。柏野小学校は終戦1年前に廃校し、その後奉安殿は神社本殿として使われたため撤去の対象外とされました。

◎別海町西春別105-9（柏野会館）

別海町指定文化財

荒涼とした原野にこの姿。人気の撮影ポイント

本別海の一本松

map 5

別海発祥の地。明治初期、鮭漁で賑わう西別川河口の番屋横にあった松のうち、風雪に耐えた1本。日の出をバックに浮かび上がる独特のシルエットを狙って全国からカメラマンがやって来ます。朝景の撮影には河口西側がおすすめです。

◎別海町本別海

別海町指定文化財

毎年6月15日のみ公開される菩薩像

南矢臼別馬頭観世音菩薩坐像

map 6

国後島泊村古丹消の観音堂に西国三十三所観音霊場にならってまつられていた33体の菩薩像のうちの1体。戦後、引き揚げてきた僧侶が持ち出したものを南矢臼別町内会が引き取り、1坪のお堂を建ててまつっています。

◎別海町上風連38-4

※観音像の一般公開は毎年6月15日、馬頭観世音祭でのみ。

別海町指定文化財

オホーツク海
知床半島
知床岬
知床岳
羅臼岳
知床峠
羅臼
羅臼町
国後島
根室海峡
野付半島
野付崎
尾岱沼
納沙布岬
根室半島
根室
東根室
西和田
落石
昆布盛
ユルリ島
落石岬
別海
別海町
中標津
中標津町
根室中標津空港
標津
標津町
斜里岳
斜里町
海別岳
知床斜里
網走
網走市
網走湖
能取湖
能取岬
女満別空港
湧別
湧別町
サロマ湖
佐呂間町
北見市
北見
留辺蘂
石北本線
訓子府
置戸
訓子府町
大空町
美幌町
小清水町
藻琴山
清里町
標津山
川湯温泉
美留和
摩周
摩周湖
弟子屈町
南弟子屈
磯分内
屈斜路湖
津別町
陸別町
陸別
阿寒湖
雄阿寒岳
雌阿寒岳
標茶町
標茶
釧網本線
鶴居
鶴居村
釧路湿原
釧路市
白糠町
足寄IC
浦幌IC
本別IC
白糠IC
阿寒IC
釧路西IC
たんちょう釧路空港
大楽毛
新富士
新大楽毛
釧路
武佐
東釧路
別保
釧路別保IC
釧路東IC
釧路湿原
釧路町
厚岸町
厚岸
厚岸湾
厚岸湖
門静
尾幌
上尾幌
糸魚沢
茶内
浜中
浜中町
浜中湾
霧多布岬
花咲線
厚床
初田牛
別当賀
落石
昆布盛
風蓮湖
尻羽岬
古瀬
音別
尺別
直別
浦幌
根室本線
浦幌町
鹿追
西鹿追
凡例:
JR線
道東自動車道
釧路外環状道路
国道
N

別海周辺マップ

野付半島周辺マップ A
野付湾
map 1 野付の千島桜
四角い太陽
厳冬期の日の出に現れる蜃気楼の一種。
新酪農村展望台
風蓮湖、阿寒知床連山を望みます。
北海シマエビ漁
初夏と秋、藻場を荒らさないよう打瀬舟で行われます。
map 2 掩体壕跡
大地みらい信用金庫 西春別支店
map 4 旧柏野尋常小学校 奉安殿
郷土資料館 ／加賀家文書館
野付半島沖で発見されたマンモスゾウの臼歯化石3個を展示。
別海町市街地 B
別海町役場
大地みらい信用金庫 別海支店
農漁村加工体験施設
チーズやバターづくり体験が可能（要予約）。
べつかい郊楽苑
植物性、茶褐色のモール温泉。
ぷらと
観光案内所・バスターミナル。
西別川
map 5 本別海の一本松
旧奥行臼駅逓所
map 3
map 6 南矢臼別 馬頭観世音菩薩坐像
風蓮湖
別海町と根室市にまたがる汽水湖と湿原は野生動植物の宝庫。

野付半島周辺マップ A

野付半島
ネイチャーセンター

トドワラや原生花園、感動スポットを
巡るネイチャーツアーが人気。

野付半島沖
●マンモス化石群

野付半島
ネイチャーセンター

野付崎灯台

トドワラ

ナラワラ

野付湾

幻の街キラク
（野付通行屋跡遺跡）

打瀬船

尾岱沼漁港

観光船のりば

244

竜神崎に立つ
野付崎灯台

幻の街キラク

オオワシ

2018年3月発行

大地みらい信用金庫
〒087-8650 北海道根室市梅ケ枝町3丁目15番地
TEL (0153) 24-4101

一般財団法人
大地みらい
基金
TEL (0153) 24-4104